



相生だより

9月号 令和3年8月26日
大田区立相生小学校
校長 山口 勝己

よりよく生きていくために

校長 山口 勝己

長かった夏休みも終わりを迎えようとしています。昨年度は、夏休み自体が短縮され、学校での夏休み行事はほぼ中止となりましたが、今年度は、感染対策を徹底し、夏季プールは学級別、夏休みワクワクスクールは学年別で実施致しました。例年の様相とは違っていたものの、子どもたちはしっかりと距離をとり、会話を控えて、それぞれの活動に集中して取り組んでいました。特に、夏ワク実施にあたっては、密にならないよう、また指導者との接触や声出しについても控えるようお願い致しました。そのような状況であっても方法を工夫し、実施していただいた本校の学校支援地域本部の皆様、講座開設者の皆様に深く感謝申し上げます。子どもたちにとってもこの夏を彩る思い出の一つになったと思います。

さて、今年の夏休みは子どもたちにとっては少し、寂しいものになったかもしれません。例年なら、家族で旅行に行ったり、普段会えない遠方の親族や知人に会いに行ったり、習い事の仲間達と合宿や遠征にいったりが夏の思い出となった子どもたちもいたかと思います。緊急事態宣言発出、延長に伴い、まるごとステイホームとなってしまった今年の夏休みでしたが、そんな中でも、またそういった状況だからこそ、できたこと、ためになったこと、思い出となったこともまたあったのではないのでしょうか。家族と過ごす時間、読書や趣味に費やす時間、自分自身を振り返る時間、素晴らしいものや美しいものにふれる時間などはもしかしたら例年に比べたっぷりとることができたかもしれません。今は、家にいながら、テレビやインターネットでいろいろな情報に触れることができます。そして、その中には自分がこれからよりよく生きていく上で影響を受けることもあります。

相生小学校ではオリンピック・パラリンピック教育に力を入れてきました。とりわけ、昨年度からは、毎週の全校朝会で過去の大会のエピソードを振り返る時間を取り、そこから様々な教育的価値を取り上げ、発達段階ごとに各学級で深めていく取組を進めて参りました。東京2020大会については残念ながら関連イベントは、ほぼ中止となり、無観客開催、大田区立学校の学校観戦プログラムも中止となってしまいました。しかし、子どもたちは様々な方法で大会にまつわる情報を得て、感動や共感をし、今後の生き方や目標など生きていくための糧となるものを感じたのではないかと思います。東京2020大会はまだ、続っていますが、大会終了後は、今大会から子どもたちの今後のよりよい生き方につながるようなエピソードを取り上げ、深めていきます。

感染状況はまだまだ衰えませんが、学校では今後も最善、細心の注意を払いつつ、教育活動を行って参ります。引き続き保護者の皆様、地域の皆様には御理解、御協力をいただけますようお願い致します。

9月の生活目標

きそく正しい生活をしよう。